

第 81 回「山形県内企業の景気動向調査」速報

(令和 6 年 11 月調査)

～ 景況感は 2 期ぶりの改善。先行きには期待感 ～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲12.9（前回調査比 1.1 ポイント上昇）と 小幅ながら 2 期ぶりの改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」と「資金繰り」で改善となった一方、「営業利益」は悪化となった。「人員・人手」は 4 期ぶりにプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲12.1（前回調査比 11.3 ポイント上昇）、製造業が▲13.0（前回調査比 2.0 ポイント上昇）、卸・小売業が▲25.2（前回調査比 9.1 ポイント下落）、サービス業が 1.3（前回調査比 2.6 ポイント上昇）と、建設業、製造業、サービス業は改善、卸・小売業は悪化となった。なお、サービス業は D I 値がプラスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲11.0（前回調査比 1.8 ポイント下落）、村山北部が▲10.0（前回調査比 1.1 ポイント下落）、最上が▲10.8（前回調査比 8.1 ポイント上昇）、置賜が▲20.4（前回調査比 8.2 ポイント下落）、庄内田川が▲17.4（前回調査比 5.7 ポイント上昇）、庄内飽海が▲9.5（前回調査比 2.8 ポイント上昇）と、村山南部、村山北部、置賜で悪化となった一方、最上、庄内田川、庄内飽海で改善となった。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲9.6（今回調査比 3.3 ポイント上昇）と 改善の見込みとなっている。
- 総じてみればコスト高による負担感は依然厳しい状況にあるものの、受注の増加や価格転嫁が進んだことなどを背景に、建設業を中心として改善がみられた。先行きについては、所得環境の改善に伴う消費促進などへの期待感がうかがえる。一方で、物価上昇による買い控えや海外・国内情勢が及ぼす影響への警戒感は強く、引き続き今後の動向を注視していく必要がある。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 66.0%（前年比 2.3 ポイント低下）と、4 年ぶりに低下となった。

令和 6 年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	4
③	卸・小売業	5
④	サービス業	6
3.	地域別の動向	7
(1)	地域別の概況	7
(2)	地域別 D I 値の動向	8
①	村山南部	8
②	村山北部	9
③	最 上	10
④	置 賜	11
⑤	庄内田川	12
⑥	庄内飽海	13
II.	景気の天気予報図	14
III.	特別調査	15
1.	冬季ボーナスについて	15
(1)	支給予定動向	15
(2)	支給予定額	17
	<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	19
	<参考資料 II : 調査の概要>	19

I. 県内企業の業況

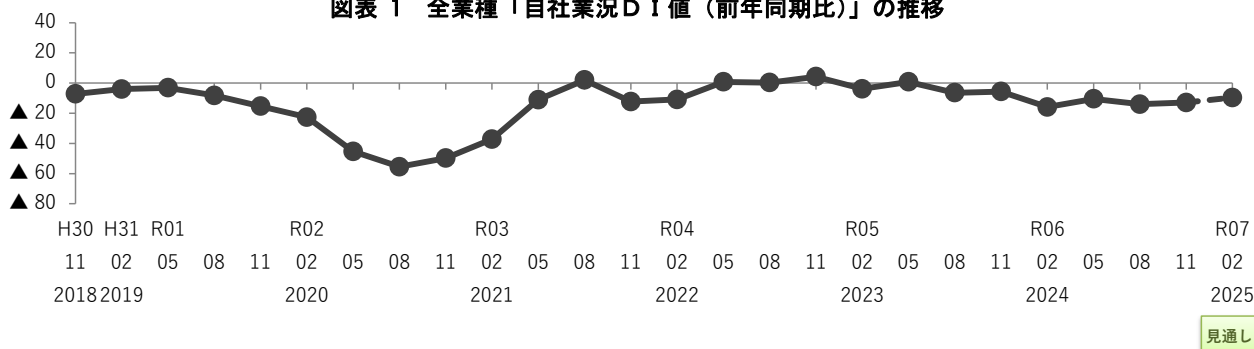
1. 概況

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲12.9（前回調査比1.1ポイント上昇）と小幅ながら2期ぶりの改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」と「資金繰り」で改善となった一方、「営業利益」は悪化となった。「人員・人手」は4期ぶりにプラス幅が拡大した。

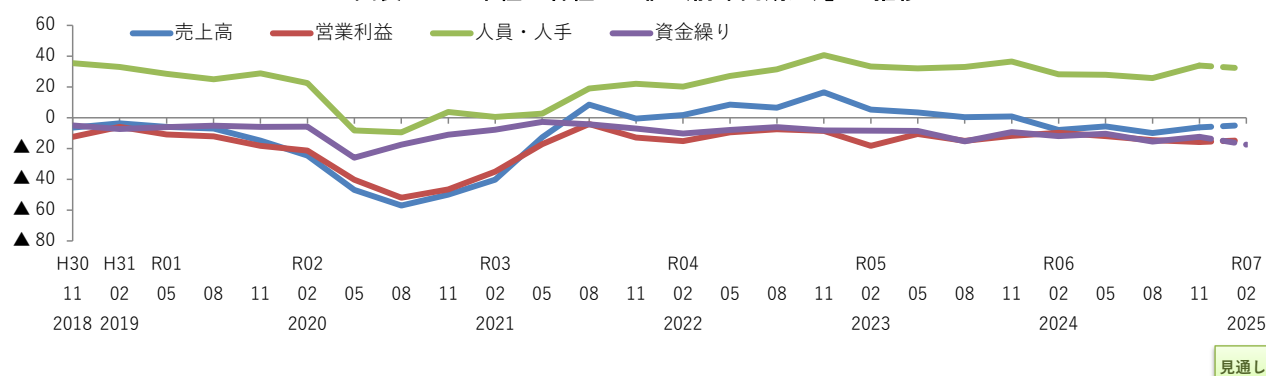
先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲9.6（今回調査比3.3ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

総じてみればコスト高による負担感は依然厳しい状況にあるものの、受注の増加や価格転嫁が進んだことなどを背景に、建設業を中心として改善がみられた。先行きについては、所得環境の改善に伴う消費促進などへの期待感がうかがえる。一方で、物価上昇による買い控えや海外・国内情勢が及ぼす影響への警戒感は強く、引き続き今後の動向を注視していく必要がある。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 05. 11 (n=356)	▲ 5. 6	(0. 8)	▲ 6. 4	0. 8	▲ 11. 8	36. 5	▲ 9. 3
R 06. 02 (n=365)	▲ 15. 9	(▲ 10. 3)	▲ 13. 2	▲ 8. 0	▲ 9. 8	28. 3	▲ 12. 0
R 06. 05 (n=374)	▲ 10. 5	(5. 4)	▲ 15. 4	▲ 5. 6	▲ 12. 0	28. 0	▲ 10. 4
R 06. 08 (n=364)	▲ 14. 0	(▲ 3. 5)	▲ 10. 2	▲ 9. 9	▲ 14. 6	25. 8	▲ 15. 4
R 06. 11 (n=385)	▲ 12. 9	(1. 1)	▲ 11. 5	▲ 6. 2	▲ 15. 8	34. 0	▲ 12. 4
前回調査比	-	-	-	(3. 7)	(▲ 1. 2)	(8. 2)	(3. 0)
先行き見通し	▲ 9. 6	-	-	▲ 4. 7	▲ 14. 6	31. 9	▲ 17. 4
今回調査比	(3. 3)	-	-	(1. 5)	(1. 2)	(▲ 2. 1)	(▲ 5. 0)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

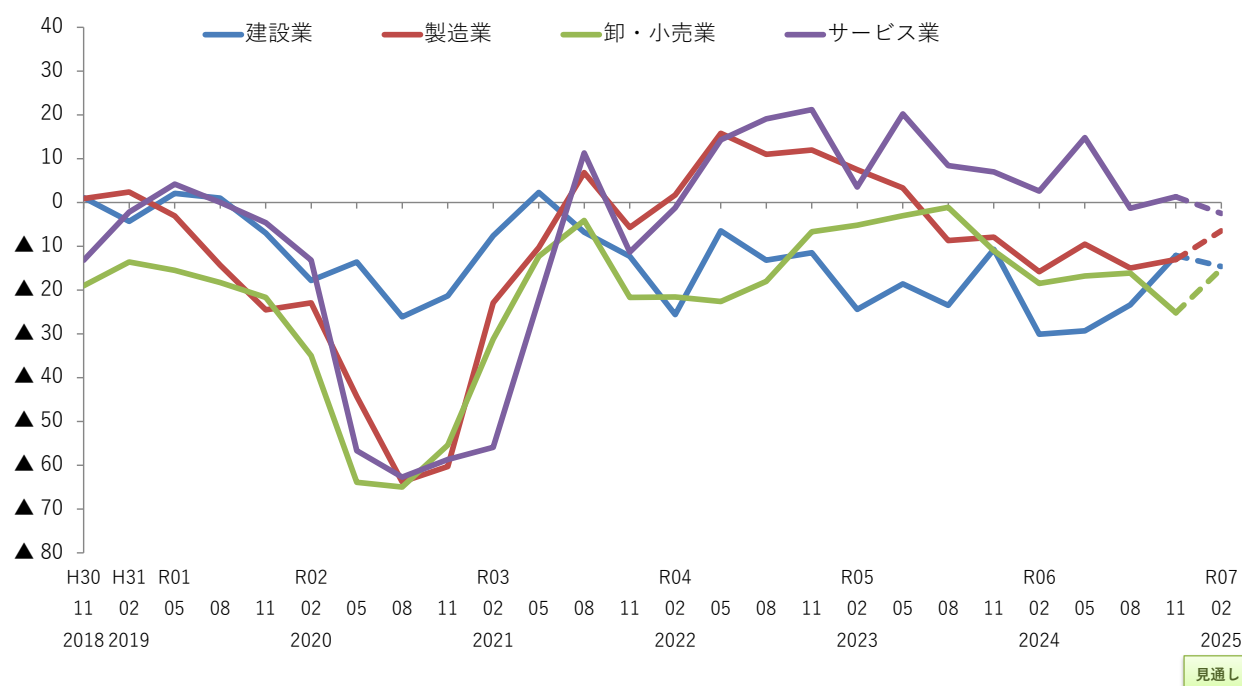
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲12.1（前回調査比 11.3 ポイント上昇）、製造業が▲13.0（前回調査比 2.0 ポイント上昇）、卸・小売業が▲25.2（前回調査比 9.1 ポイント下落）、サービス業が 1.3（前回調査比 2.6 ポイント上昇）と、建設業、製造業、サービス業は改善、卸・小売業は悪化となった。なお、サービス業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、製造業と卸・小売業は改善、建設業とサービス業は悪化の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 11 (n=356)	▲ 5. 6	▲ 10. 7	▲ 7. 9	▲ 11. 0	7. 0
R 06. 02 (n=365)	▲ 15. 9	▲ 30. 1	▲ 15. 8	▲ 18. 5	2. 6
R 06. 05 (n=374)	▲ 10. 5	▲ 29. 3	▲ 9. 5	▲ 16. 8	14. 8
R 06. 08 (n=364)	▲ 14. 0	▲ 23. 4	▲ 15. 0	▲ 16. 1	▲ 1. 3
R 06. 11 (n=385)	▲ 12. 9	▲ 12. 1	▲ 13. 0	▲ 25. 2	1. 3
前回調査比	(1. 1)	(11. 3)	(2. 0)	(▲ 9. 1)	(2. 6)
先行き見通し	▲ 9. 6	▲ 14. 6	▲ 6. 5	▲ 15. 2	▲ 2. 5
今回調査比	(3. 3)	(▲ 2. 5)	(6. 5)	(10. 0)	(▲ 3. 8)

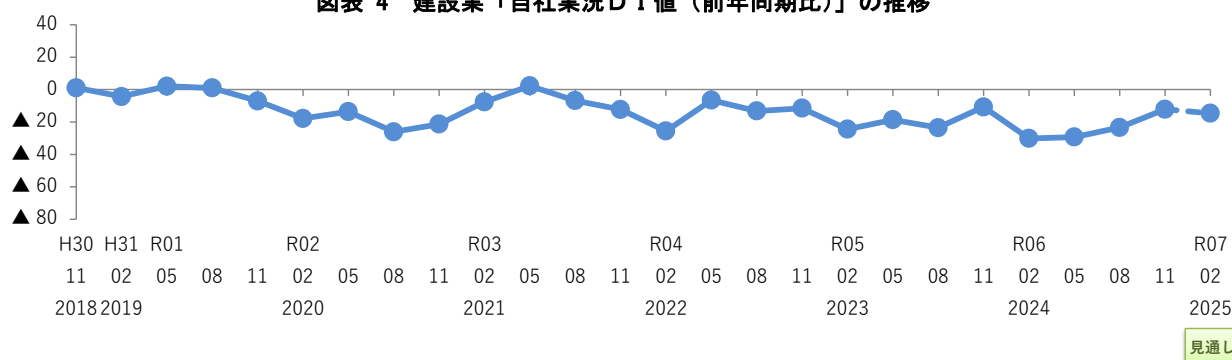
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

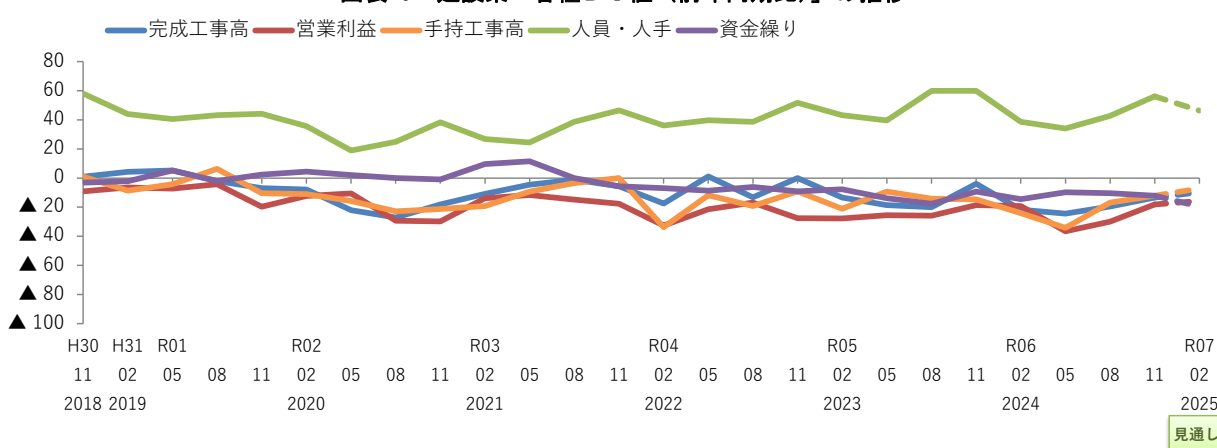
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.1（前回調査比 11.3 ポイント上昇）と、3 期連続の改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」は改善、「資金繰り」は悪化した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントによると、豪雨災害の復旧工事による受注の増加がみられる一方、民間の設備投資や住宅建設は低調な動きとなっている。また、手持工事の増加に対して、人手の確保はますます困難になっており、複数の企業が採用活動の強化など、人手不足への対応を重点的な取り組みとして挙げている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲14.6（今回調査比 2.5 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



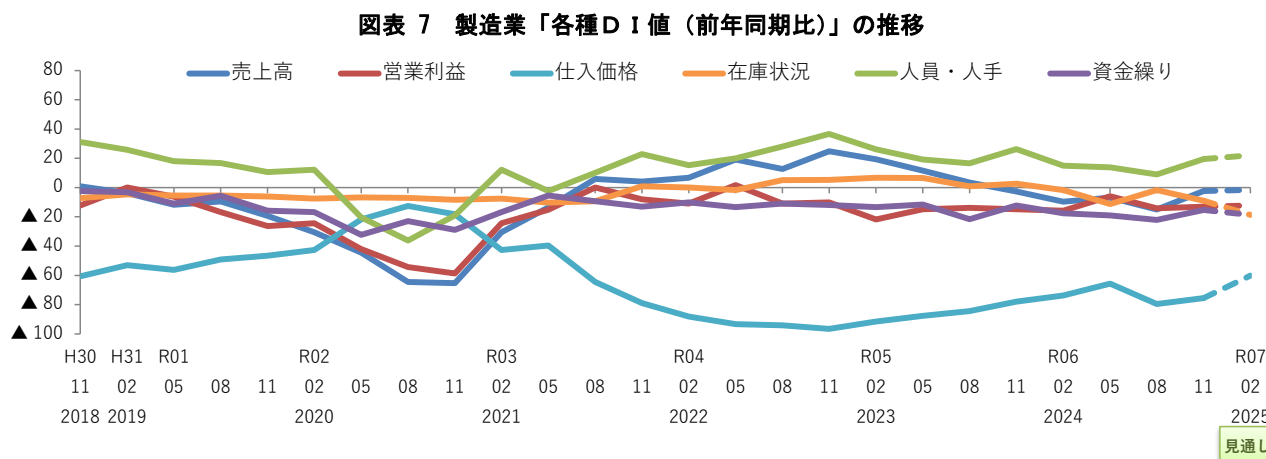
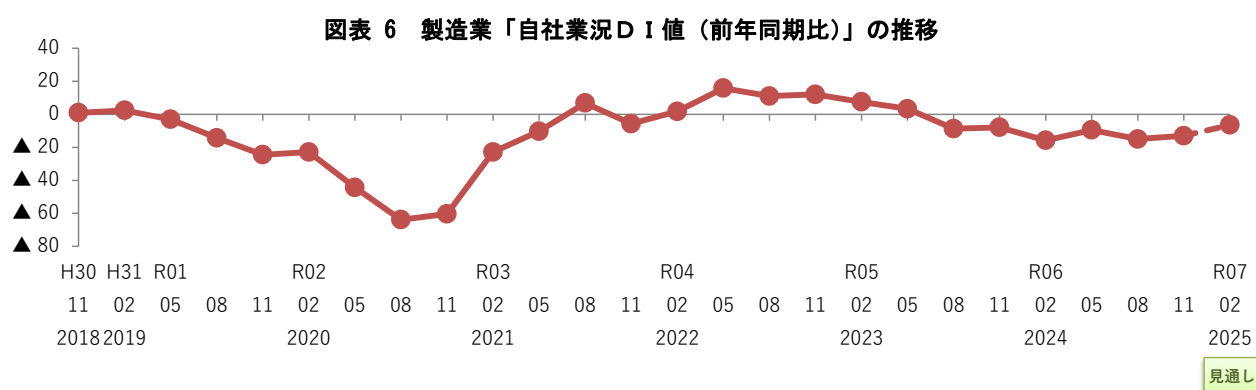
前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 05. 11 (n=75)	▲ 10. 7	(12. 8)	▲ 7. 1	▲ 4. 0	▲ 18. 6	▲ 14. 6	60. 0	▲ 9. 3
R 06. 02 (n=83)	▲ 30. 1	(▲ 19. 4)	▲ 40. 0	▲ 21. 7	▲ 19. 2	▲ 24. 1	38. 6	▲ 14. 5
R 06. 05 (n=82)	▲ 29. 3	(0. 8)	▲ 39. 8	▲ 24. 4	▲ 36. 6	▲ 34. 2	34. 1	▲ 9. 7
R 06. 08 (n=77)	▲ 23. 4	(5. 9)	▲ 22. 0	▲ 19. 5	▲ 29. 9	▲ 16. 9	42. 8	▲ 10. 4
R 06. 11 (n=82)	▲ 12. 1	(11. 3)	▲ 6. 5	▲ 13. 4	▲ 18. 2	▲ 12. 2	56. 1	▲ 12. 2
前回調査比	-	-	-	(6. 1)	(11. 7)	(4. 7)	(13. 3)	(▲ 1. 8)
先行き見通し	▲ 14. 6	-	-	▲ 9. 8	▲ 15. 8	▲ 7. 3	46. 4	▲ 19. 5
今回調査比	(▲ 2. 5)	-	-	(3. 6)	(2. 4)	(4. 9)	(▲ 9. 7)	(▲ 7. 3)

② 製造業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.0（前回調査比 2.0 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」は改善、「在庫状況」は悪化となった。「人員・人手」は 4 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントから、一部半導体関連では持ち直しの動きがみられたものの、多くの企業では原材料高が続いており、経営環境の厳しさがうかがえる。また、食品関連では、価格転嫁が進んで売上も増加しているが、一方で、値上げによる消費者の買い控えが懸念されるとするコメントも寄せられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲6.5（今回調査比 6.5 ポイント上昇）と改善が見込まれている。



前年同期比の自社業況 D I 値

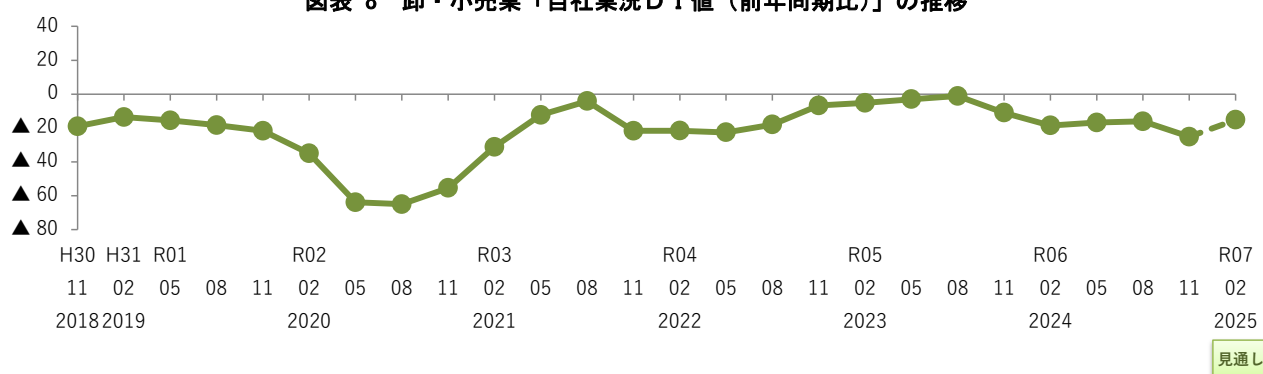
製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 05. 11 (n=114)	▲ 7.9	(0.8)	▲ 12.2	▲ 2.7	▲ 14.9	▲ 78.0	2.6	26.3	▲ 12.3
R 06. 02 (n=114)	▲ 15.8	(▲ 7.9)	▲ 7.9	▲ 9.7	▲ 15.8	▲ 73.7	▲ 1.8	14.9	▲ 17.6
R 06. 05 (n=116)	▲ 9.5	(6.3)	▲ 7.1	▲ 6.9	▲ 6.0	▲ 65.6	▲ 11.2	13.8	▲ 19.0
R 06. 08 (n=113)	▲ 15.0	(▲ 5.5)	▲ 7.8	▲ 15.0	▲ 14.2	▲ 79.6	▲ 1.7	8.9	▲ 22.1
R 06. 11 (n=123)	▲ 13.0	(2.0)	▲ 10.6	▲ 2.4	▲ 13.0	▲ 75.6	▲ 9.0	19.5	▲ 15.4
前回調査比	-	-	-	(12.6)	(1.2)	(4.0)	(▲ 7.3)	(10.6)	(6.7)
先行き見通し	▲ 6.5	-	-	▲ 1.6	▲ 12.2	▲ 60.2	▲ 18.7	22.0	▲ 18.7
今回調査比	(6.5)	-	-	(0.8)	(0.8)	(15.4)	(▲ 9.7)	(2.5)	(▲ 3.3)

③ 卸・小売業

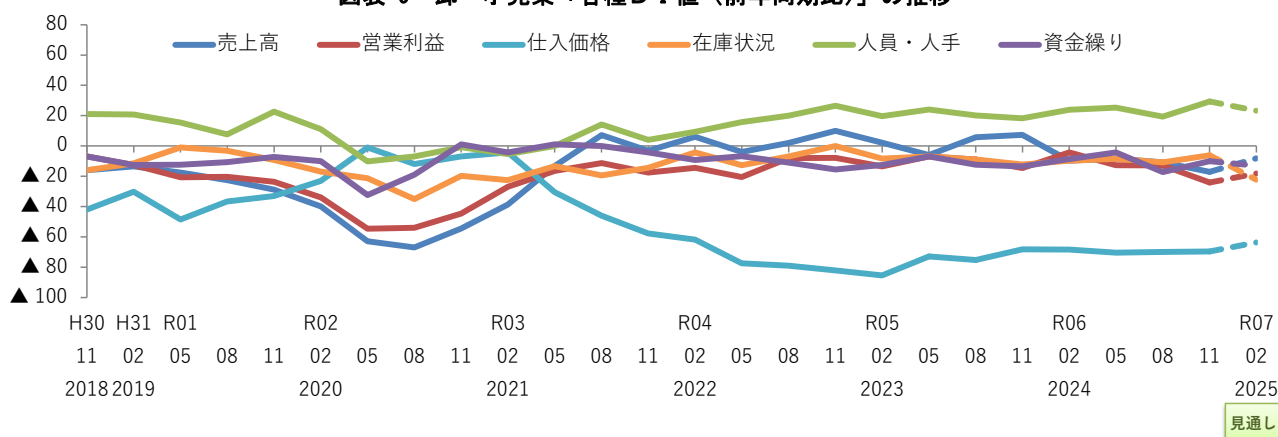
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲25.2（前回調査比 9.1 ポイント下落）と 3 期ぶりの悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」と「資金繰り」は改善、「売上高」と「営業利益」は悪化、「仕入価格」はほぼ横ばいの推移となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントをみると、仕入価格の上昇に対して販売価格への十分な転嫁は難しく、総じて商品の値上げへの慎重な姿勢がうかがえる。消費者の節約志向は依然強く、特に衣料品販売業においては、買い控えが顕著に感じられるとする内容が複数寄せられた。また、青果卸売業などでは、天候不順の影響により、輸入品も含め一部入荷量が不安定となっている状況がみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲15.2（今回調査比 10.0 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

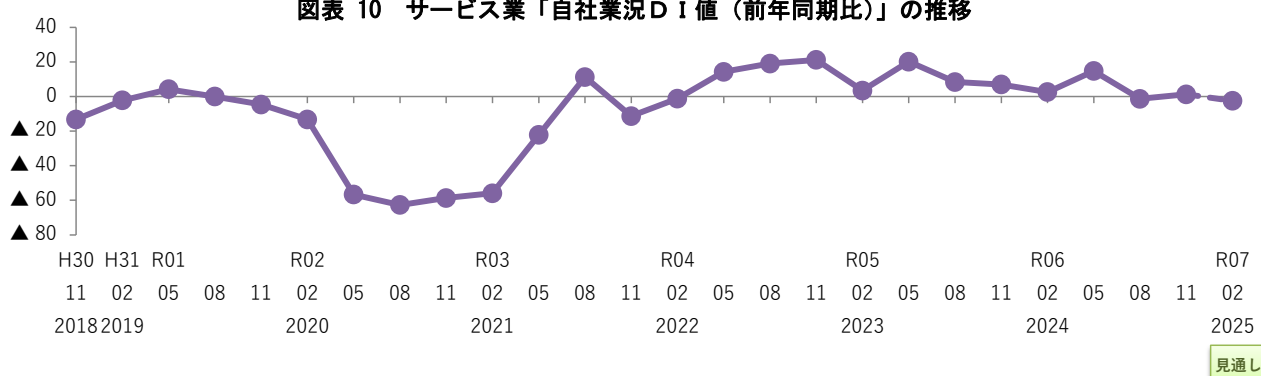
卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 05.11 (n=82)	▲ 11.0	(▲ 9.9)	▲ 7.9	7.3	▲ 14.6	▲ 68.3	▲ 12.2	18.3	▲ 13.5
R 06.02 (n=92)	▲ 18.5	(▲ 7.5)	▲ 7.3	▲ 9.8	▲ 4.3	▲ 68.4	▲ 9.8	23.9	▲ 8.7
R 06.05 (n=95)	▲ 16.8	(1.7)	▲ 15.2	▲ 8.4	▲ 12.7	▲ 70.5	▲ 8.5	25.3	▲ 4.2
R 06.08 (n=93)	▲ 16.1	(0.7)	▲ 5.3	▲ 10.8	▲ 12.9	▲ 69.9	▲ 10.8	19.4	▲ 17.2
R 06.11 (n=99)	▲ 25.2	(▲ 9.1)	▲ 21.5	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 69.7	▲ 6.1	29.3	▲ 10.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.3)	(▲ 11.3)	(0.2)	(4.7)	(9.9)	(7.1)
先行き見通し	▲ 15.2	-	-	▲ 8.1	▲ 18.2	▲ 63.7	▲ 22.3	23.2	▲ 13.1
今回調査比	(10.0)	-	-	(9.0)	(6.0)	(6.0)	(▲ 16.2)	(▲ 6.1)	(▲ 3.0)

④ サービス業

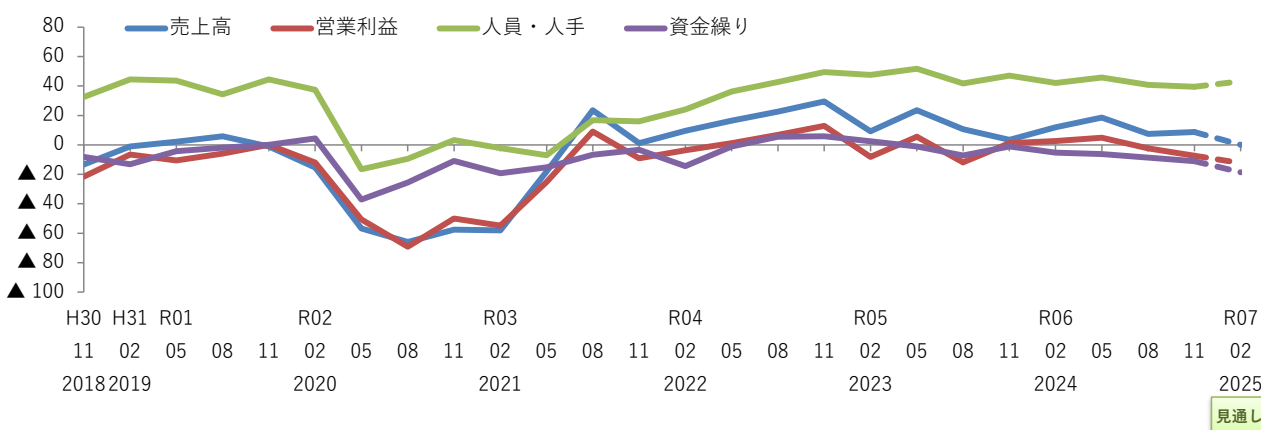
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.3（前回調査比 2.6 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなり、プラスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」は改善、「営業利益」と「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントから、宿泊業では、外国人旅行者が多い地域と少ない地域で業況が二極化しており、インバウンドによる影響の大きさがうかがえた。また、最低賃金の上昇に伴う人件費の増加、人手不足の深刻化など、雇用に関する課題を挙げた内容が目立った。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲2.5（今回調査比 3.8 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 05.11 (n=85)	7.0 (▲ 1.4)	3.6		3.5	1.2	47.0	▲ 1.1
R 06.02 (n=76)	2.6 (▲ 4.4)	▲ 2.4		11.9	2.7	42.1	▲ 5.3
R 06.05 (n=81)	14.8 (12.2)	▲ 1.3		18.5	4.9	45.7	▲ 6.2
R 06.08 (n=81)	▲ 1.3 (▲ 16.1)	▲ 7.4		7.4	▲ 2.4	40.7	▲ 8.6
R 06.11 (n=81)	1.3 (2.6)	▲ 6.2		8.7	▲ 7.4	39.5	▲ 11.1
前回調査比	-	-		(1.3)	(▲ 5.0)	(▲ 1.2)	(▲ 2.5)
先行き見通し	▲ 2.5	-		0.0	▲ 12.4	43.2	▲ 18.6
今回調査比	(▲ 3.8)	-		(▲ 8.7)	(▲ 5.0)	(3.7)	(▲ 7.5)

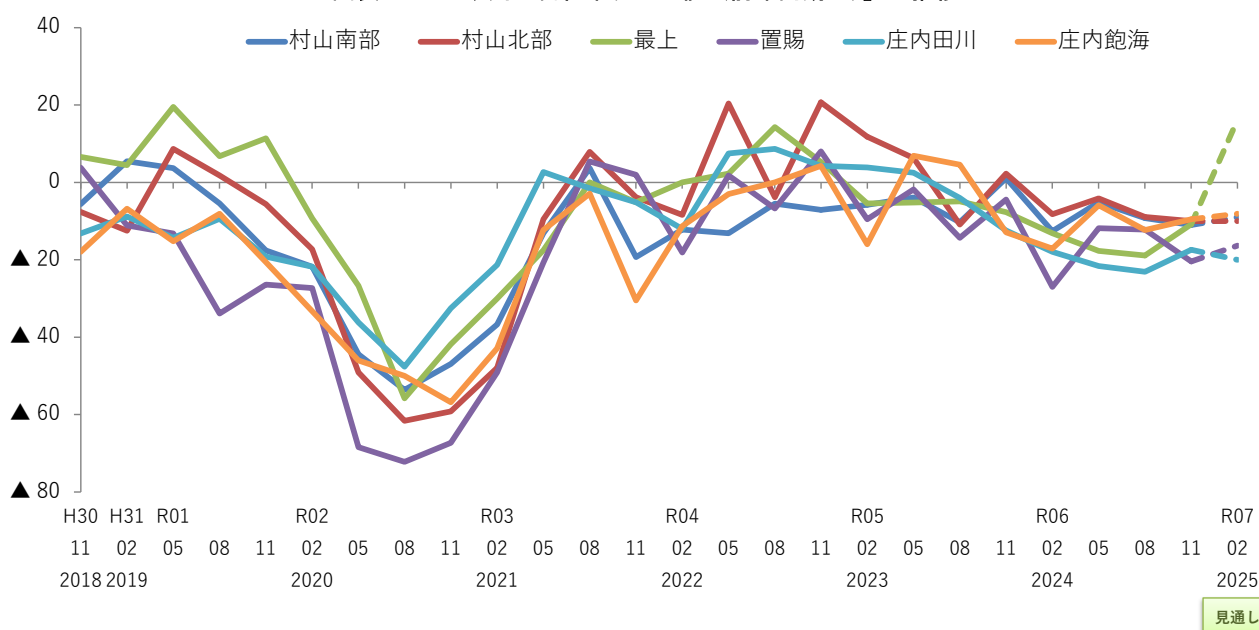
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲11.0（前回調査比 1.8 ポイント下落）、村山北部が▲10.0（前回調査比 1.1 ポイント下落）、最上が▲10.8（前回調査比 8.1 ポイント上昇）、置賜が▲20.4（前回調査比 8.2 ポイント下落）、庄内田川が▲17.4（前回調査比 5.7 ポイント上昇）、庄内飽海が▲9.5（前回調査比 2.8 ポイント上昇）と、村山南部、村山北部、置賜で悪化となった一方、最上、庄内田川、庄内飽海で改善となった。

業況の先行き見通しをみると、庄内田川は悪化、村山南部、最上、置賜、庄内飽海は改善、村山北部は横ばいに推移する見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	1.1	2.3	▲ 7.7	▲ 4.4	▲ 12.4	▲ 12.9
R 06. 02 (n=365)	▲ 15.9	▲ 12.6	▲ 8.2	▲ 13.1	▲ 27.0	▲ 17.9	▲ 17.1
R 06. 05 (n=374)	▲ 10.5	▲ 5.1	▲ 4.1	▲ 17.7	▲ 11.8	▲ 21.6	▲ 5.9
R 06. 08 (n=364)	▲ 14.0	▲ 9.2	▲ 8.9	▲ 18.9	▲ 12.2	▲ 23.1	▲ 12.3
R 06. 11 (n=385)	▲ 12.9	▲ 11.0	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 20.4	▲ 17.4	▲ 9.5
前回調査比	(1.1)	(▲ 1.8)	(▲ 1.1)	(8.1)	(▲ 8.2)	(5.7)	(2.8)
先行き見通し	▲ 9.6	▲ 9.0	▲ 10.0	16.2	▲ 16.3	▲ 20.0	▲ 8.1
今回調査比	(3.3)	(2.0)	(0.0)	(27.0)	(4.1)	(▲ 2.6)	(1.4)

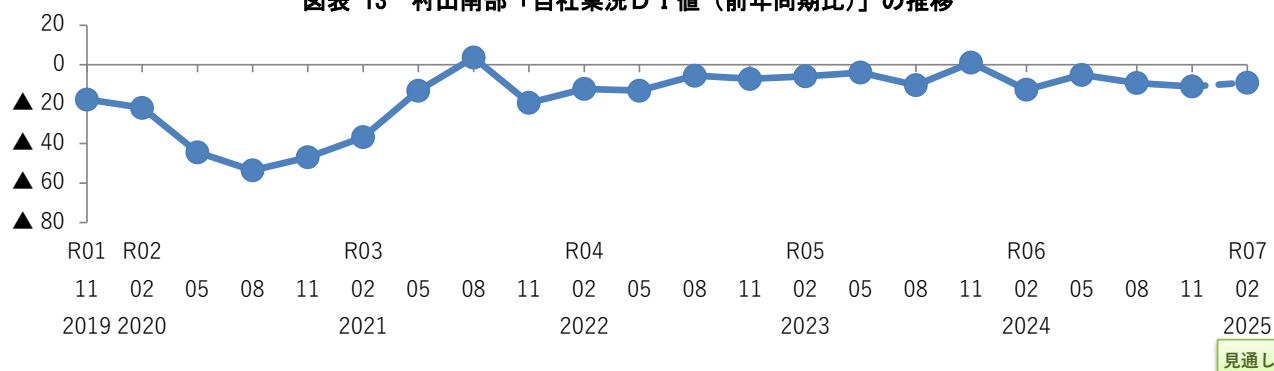
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

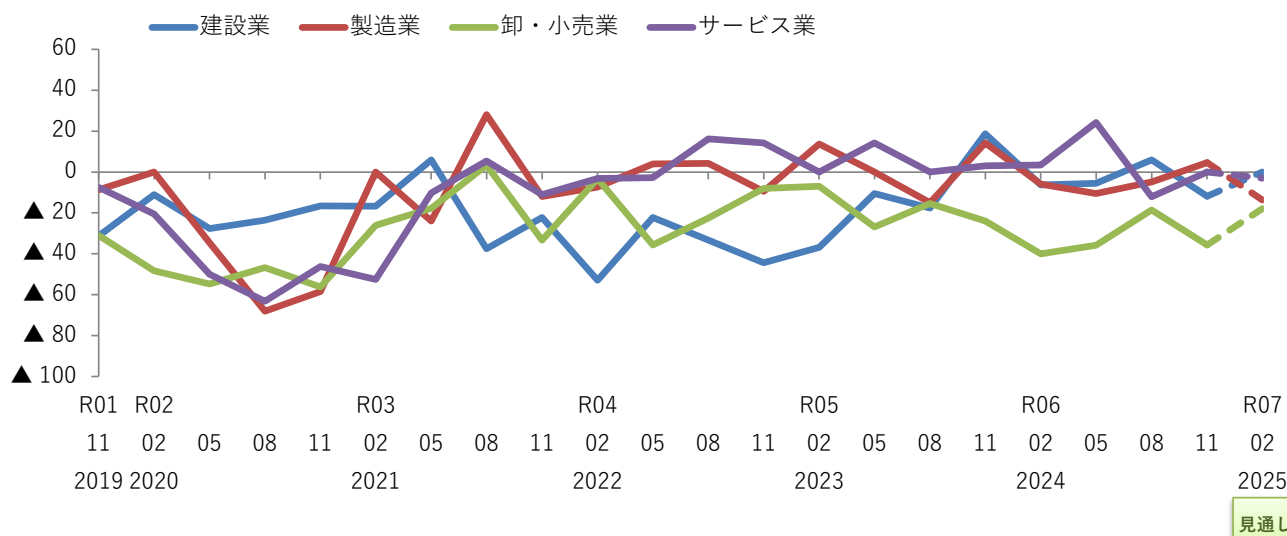
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲11.0（前回調査比 1.8 ポイント下落）と 2 期連続の悪化となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業で悪化、製造業とサービス業で改善となった。建設業は D I 値がマイナスに、製造業はプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲9.0（今回調査比 2.0 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

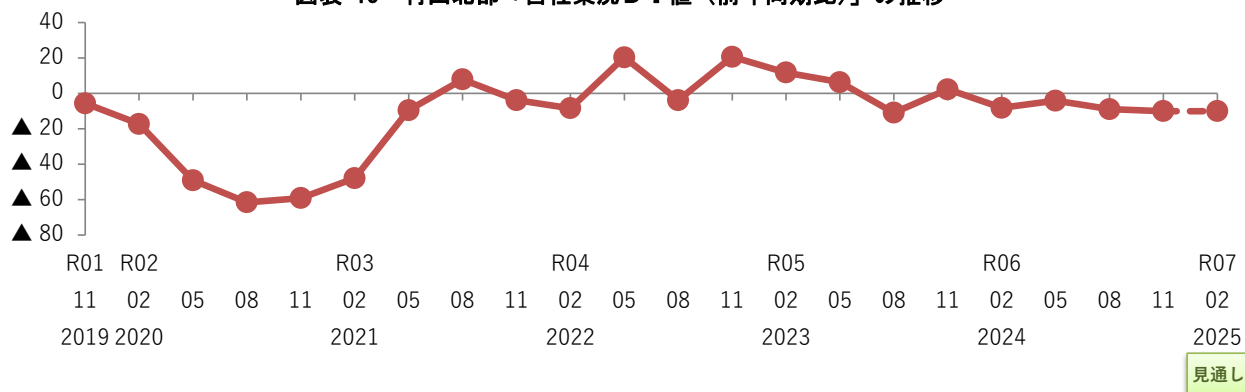
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 11 (n=94)	1.1	(11.4)	▲ 10.3	18.7	14.3	▲ 24.0	3.1
R 06. 02 (n=87)	▲ 12.6	(▲ 13.7)	▲ 11.7	▲ 6.3	▲ 5.9	▲ 40.0	3.5
R 06. 05 (n=98)	▲ 5.1	(7.5)	▲ 11.5	▲ 5.5	▲ 10.5	▲ 35.8	24.3
R 06. 08 (n=98)	▲ 9.2	(▲ 4.1)	▲ 9.2	5.9	▲ 4.8	▲ 18.5	▲ 12.1
R 06. 11 (n=100)	▲ 11.0	(▲ 1.8)	▲ 5.1	▲ 11.8	4.6	▲ 35.7	0.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 17.7)	(9.4)	(▲ 17.2)	(12.1)
先行き見通し	▲ 9.0	-	-	0.0	▲ 13.7	▲ 17.9	▲ 3.0
今回調査比	(2.0)	-	-	(11.8)	(▲ 18.3)	(17.8)	(▲ 3.0)

② 村山北部

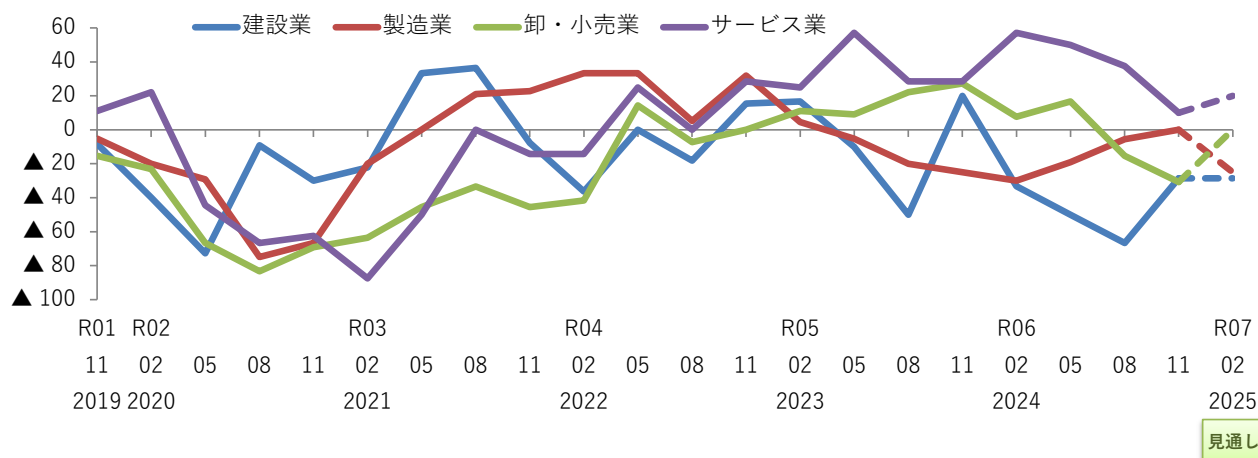
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.0（前回調査比 1.1 ポイント下落）と 2 期連続の悪化となった。
業種別にみると、建設業と製造業で改善、卸・小売業とサービス業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲10.0（今回調査比±0.0 ポイント）と横ばいで推移する見込みとなっている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



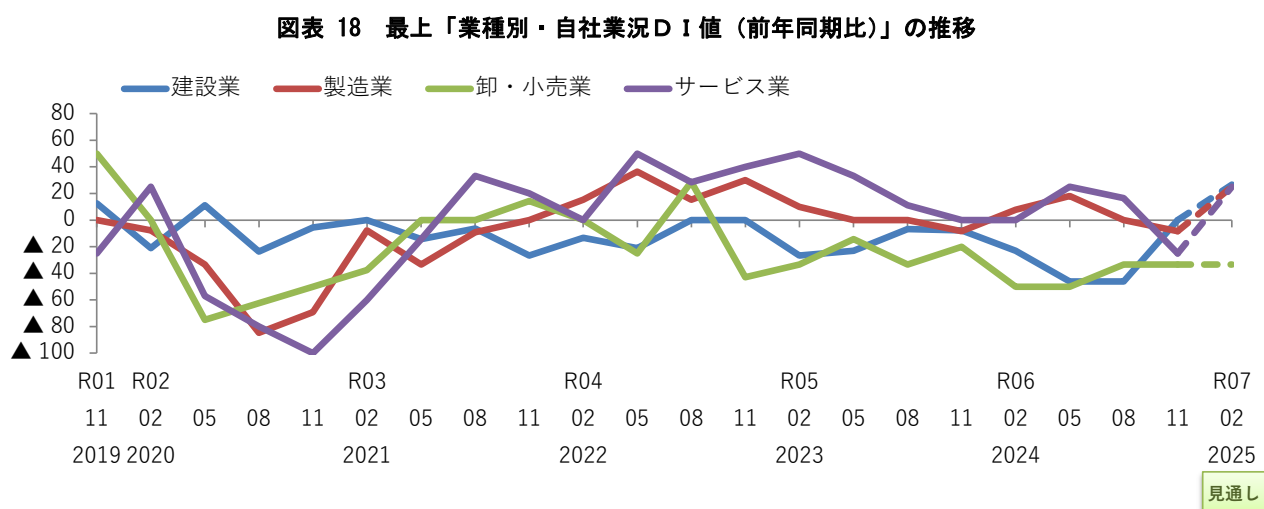
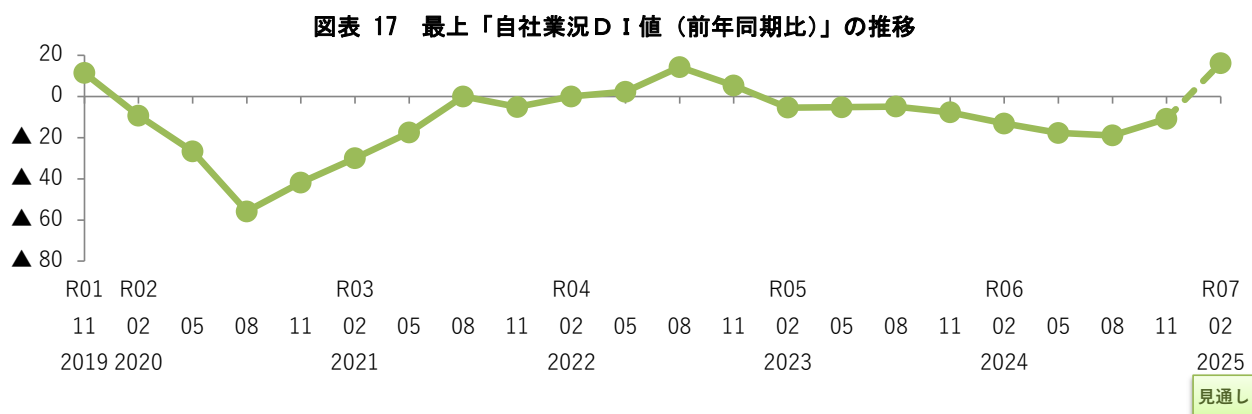
前年同期比の自社業況 D I 値

村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 11 (n=43)	2.3	(13.2)	▲ 2.2	20.0	▲ 25.0	27.3	28.6
R 06. 02 (n=49)	▲ 8.2	(▲ 10.5)	▲ 9.3	▲ 33.3	▲ 30.0	7.7	57.1
R 06. 05 (n=49)	▲ 4.1	(4.1)	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 19.1	16.7	50.0
R 06. 08 (n=45)	▲ 8.9	(▲ 4.8)	▲ 10.2	▲ 66.7	▲ 5.6	▲ 15.4	37.5
R 06. 11 (n=50)	▲ 10.0	(▲ 1.1)	▲ 4.5	▲ 28.6	0.0	▲ 30.8	10.0
前回調査比	-	-	-	(38.1)	(5.6)	(▲ 15.4)	(▲ 27.5)
先行き見通し	▲ 10.0	-	-	▲ 28.6	▲ 25.0	0.0	20.0
今回調査比	(0.0)	-	-	(0.0)	(▲ 25.0)	(30.8)	(10.0)

③ 最 上

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.8（前回調査比 8.1 ポイント上昇）と 5 期ぶりに改善した。業種別にみると、建設業は改善、製造業とサービス業は悪化、卸・小売業は横ばいの推移となっており、サービス業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 16.2（今回調査比 27.0 ポイント上昇）と改善が見込まれている。



前年同期比の自社業況 D I 値

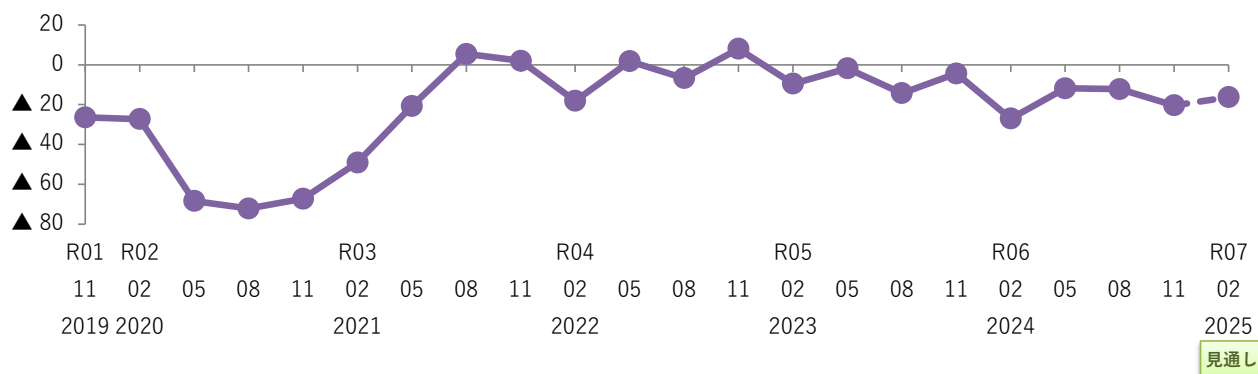
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 05. 11 (n=39)	▲ 7. 7	(▲ 2. 8)	▲ 7. 4	▲ 7. 7	▲ 8. 4	▲ 20. 0	0. 0
R 06. 02 (n=38)	▲ 13. 1	(▲ 5. 4)	▲ 15. 4	▲ 23. 1	7. 7	▲ 50. 0	0. 0
R 06. 05 (n=34)	▲ 17. 7	(▲ 4. 6)	▲ 21. 0	▲ 46. 2	18. 2	▲ 50. 0	25. 0
R 06. 08 (n=37)	▲ 18. 9	(▲ 1. 2)	▲ 20. 6	▲ 46. 1	0. 0	▲ 33. 3	16. 6
R 06. 11 (n=37)	▲ 10. 8	(8. 1)	0. 0	0. 0	▲ 8. 3	▲ 33. 3	▲ 25. 0
前回調査比	-	-	-	(46. 1)	(▲ 8. 3)	(0. 0)	(▲ 41. 6)
先行き見通し	16. 2	-	-	26. 6	25. 0	▲ 33. 3	25. 0
今回調査比	(27. 0)	-	-	(26. 6)	(33. 3)	(0. 0)	(50. 0)

④ 置 賜

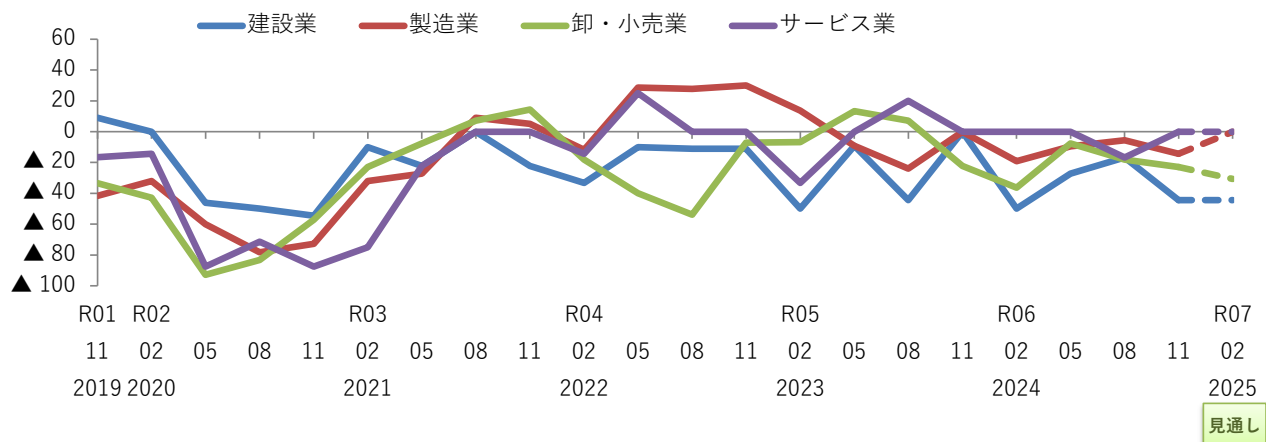
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲20.4（前回調査比 8.2 ポイント下落）と 2 期連続の悪化となった。
業種別にみると、サービス業で改善、その他の 3 業種で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.3（今回調査比 4.1 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

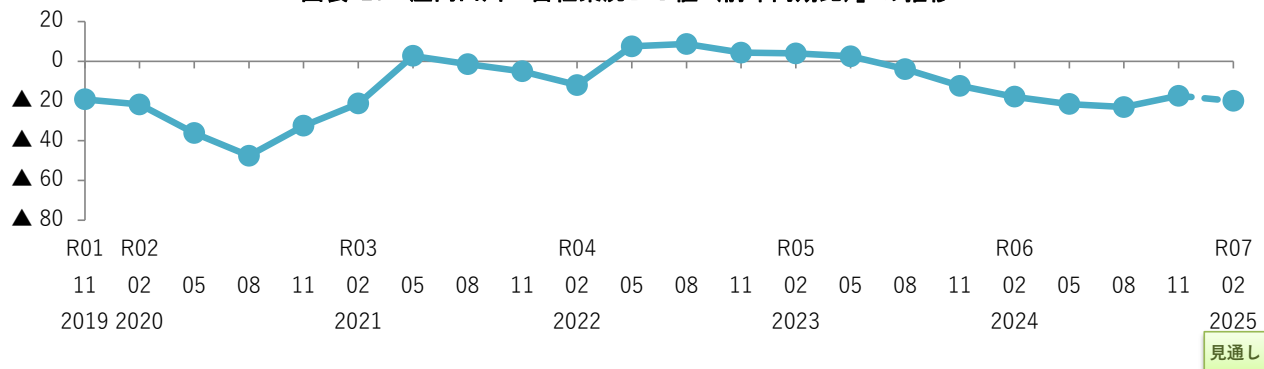
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 05. 11 (n=45)	▲ 4.4	(9.9)	▲ 12.3	0.0	0.0	▲ 22.2	0.0
R 06. 02 (n=48)	▲ 27.0	(▲ 22.6)	▲ 26.7	▲ 50.0	▲ 19.1	▲ 36.3	0.0
R 06. 05 (n=51)	▲ 11.8	(15.2)	▲ 16.7	▲ 27.3	▲ 9.5	▲ 7.7	0.0
R 06. 08 (n=41)	▲ 12.2	(▲ 0.4)	3.9	▲ 16.7	▲ 5.6	▲ 18.2	▲ 16.7
R 06. 11 (n=49)	▲ 20.4	(▲ 8.2)	▲ 9.7	▲ 44.5	▲ 14.3	▲ 23.0	0.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 27.8)	(▲ 8.7)	(▲ 4.8)	(16.7)
先行き見通し	▲ 16.3	-	-	▲ 44.5	0.0	▲ 30.7	0.0
今回調査比	(4.1)	-	-	(0.0)	(14.3)	(▲ 7.7)	(0.0)

⑤ 庄内田川

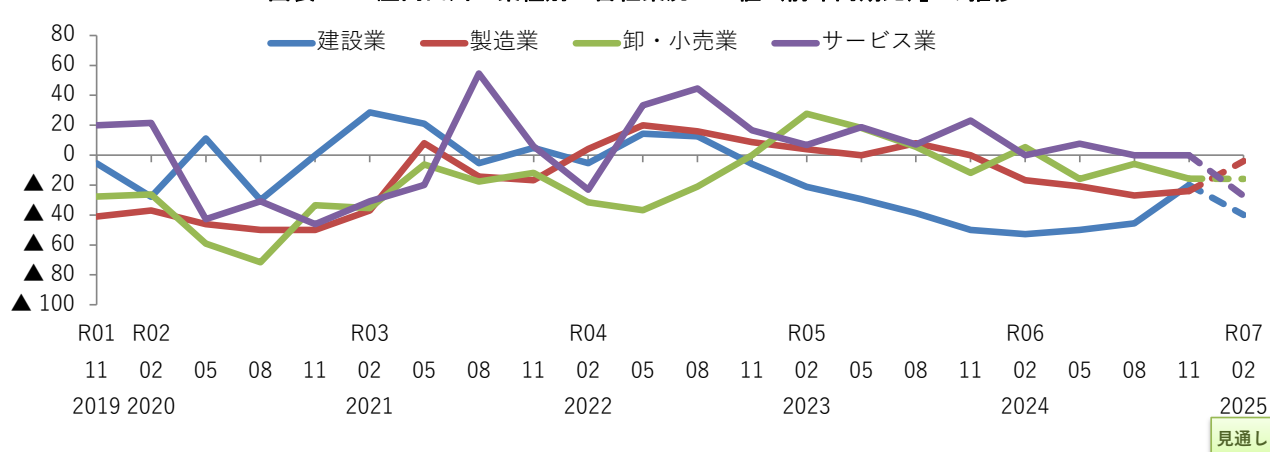
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲17.4（前回調査比 5.7 ポイント上昇）と 9 期ぶりの改善となった。業種別にみると、建設業と製造業は改善、卸・小売業は悪化、サービス業は横ばいの推移となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲20.0（今回調査 2.6 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



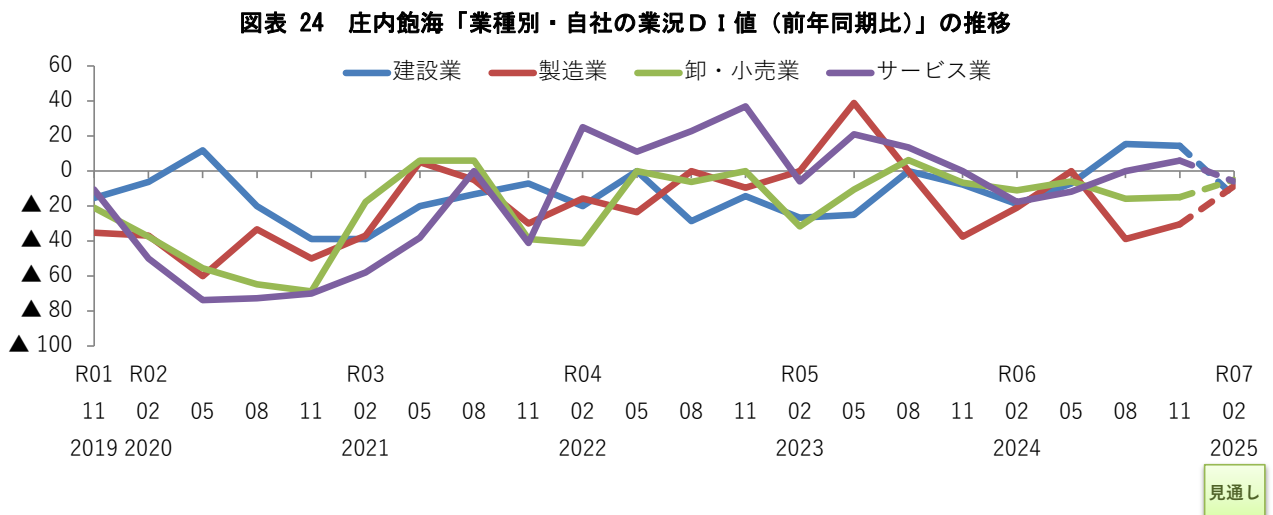
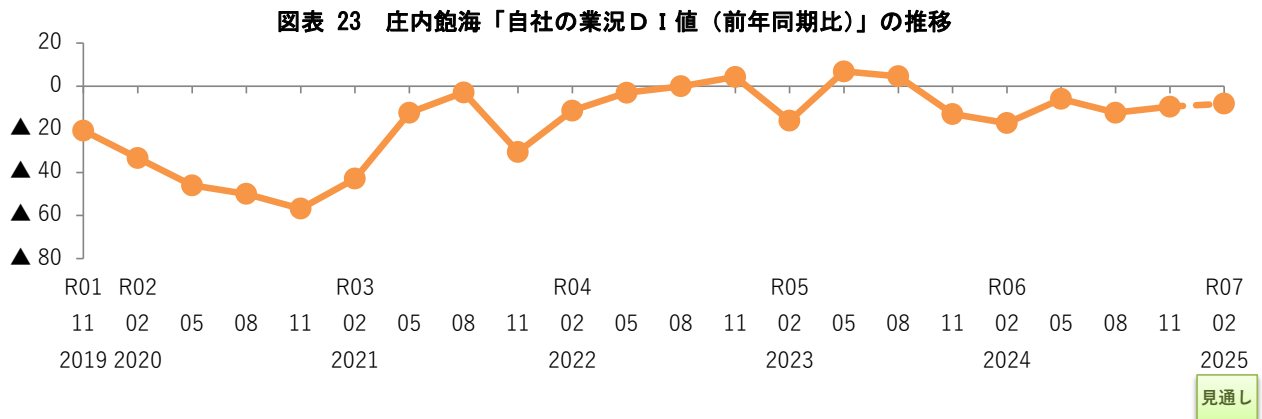
前年同期比の自社業況 D I 値

庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 11 (n=73)	▲ 12.4	(▲ 8.4)	▲ 2.7	▲ 50.0	0.0	▲ 11.8	23.1
R 06. 02 (n=73)	▲ 17.9	(▲ 5.5)	▲ 8.2	▲ 52.7	▲ 16.7	5.3	0.0
R 06. 05 (n=74)	▲ 21.6	(▲ 3.7)	▲ 21.9	▲ 50.0	▲ 20.8	▲ 15.8	7.7
R 06. 08 (n=78)	▲ 23.1	(▲ 1.5)	▲ 13.5	▲ 45.5	▲ 27.0	▲ 5.9	0.0
R 06. 11 (n=75)	▲ 17.4	(5.7)	▲ 21.8	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 15.7	0.0
前回調査比	-	-	-	(25.5)	(3.0)	(▲ 9.8)	(0.0)
先行き見通し	▲ 20.0	-	-	▲ 40.0	▲ 4.0	▲ 15.8	▲ 27.3
今回調査比	(▲ 2.6)	-	-	(▲ 20.0)	(20.0)	(▲ 0.1)	(▲ 27.3)

⑥ 庄内飽海

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲9.5（前回調査比 2.8 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなっている。業種別にみると、建設業で悪化、その他の3業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲8.1（今回調査比 1.4 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 11 (n=62)	▲ 12.9	(▲ 17.5)	▲ 3.1	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 6.7	0.0
R 06. 02 (n=70)	▲ 17.1	(▲ 4.2)	▲ 12.9	▲ 18.8	▲ 21.0	▲ 11.1	▲ 17.7
R 06. 05 (n=68)	▲ 5.9	(11.2)	▲ 10.0	▲ 7.1	0.0	▲ 5.9	▲ 11.8
R 06. 08 (n=65)	▲ 12.3	(▲ 6.4)	▲ 13.2	15.4	▲ 38.8	▲ 15.8	0.0
R 06. 11 (n=74)	▲ 9.5	(2.8)	▲ 21.5	14.3	▲ 30.4	▲ 15.0	5.9
前回調査比	-	-	-	(▲ 1.1)	(8.4)	(0.8)	(5.9)
先行き見通し	▲ 8.1	-	-	▲ 14.3	▲ 8.7	▲ 5.0	▲ 5.9
今回調査比	(1.4)	-	-	(▲ 28.6)	(21.7)	(10.0)	(▲ 11.8)

II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

山 形 県

今期の業況 → 来期の見通し

庄内飽海

→

最 上

→

庄内田川

→

村山北部

→

置 賜

→

村山南部

→

今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

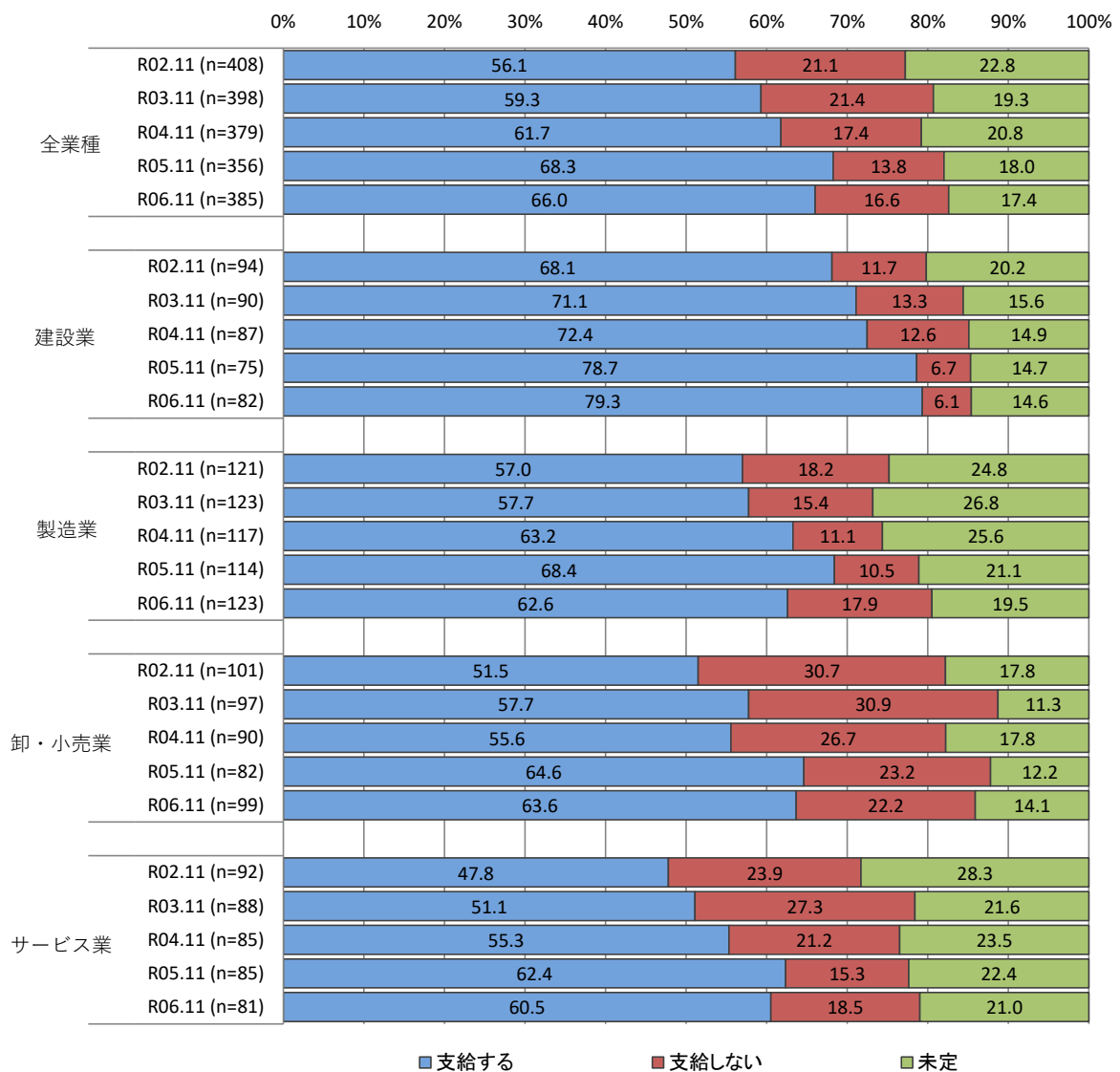
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 66.0%（前年比 2.3 ポイント低下）と、4 年ぶりに低下となった。

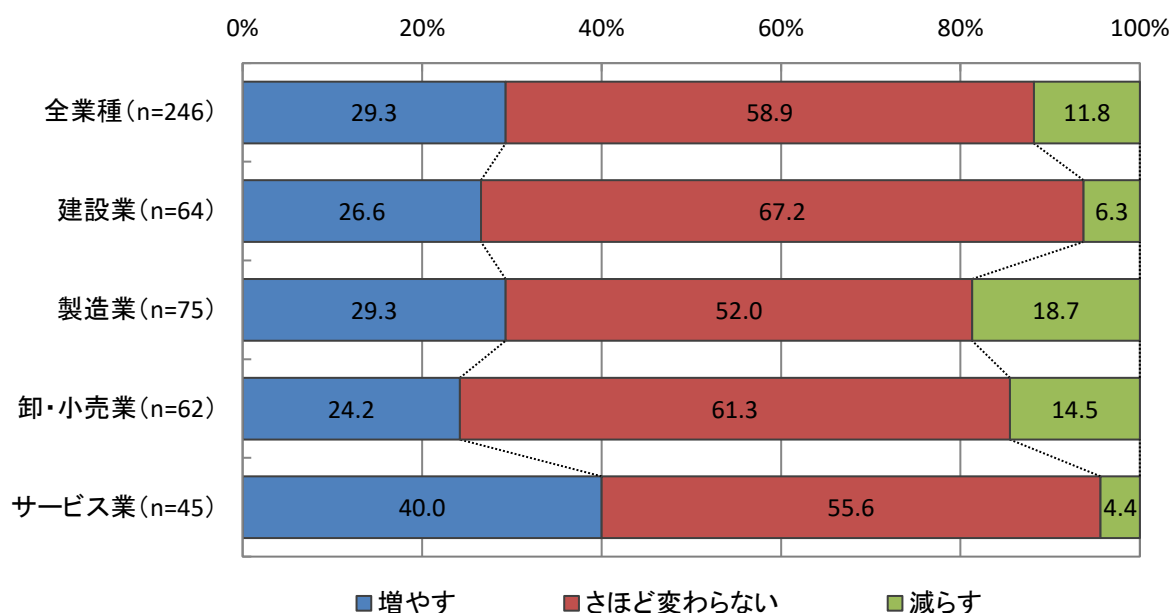
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 79.3%（前年比 0.6 ポイント上昇）、製造業が 62.6%（前年比 5.8 ポイント低下）、卸・小売業が 63.6%（前年比 1.0 ポイント低下）、サービス業が 60.5%（前年比 1.9 ポイント低下）と、建設業で上昇となった一方、その他の 3 業種で低下となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、58.9%であった。業種別にみると、サービス業で「増やす」の割合が他業種に比べて高くなっている。

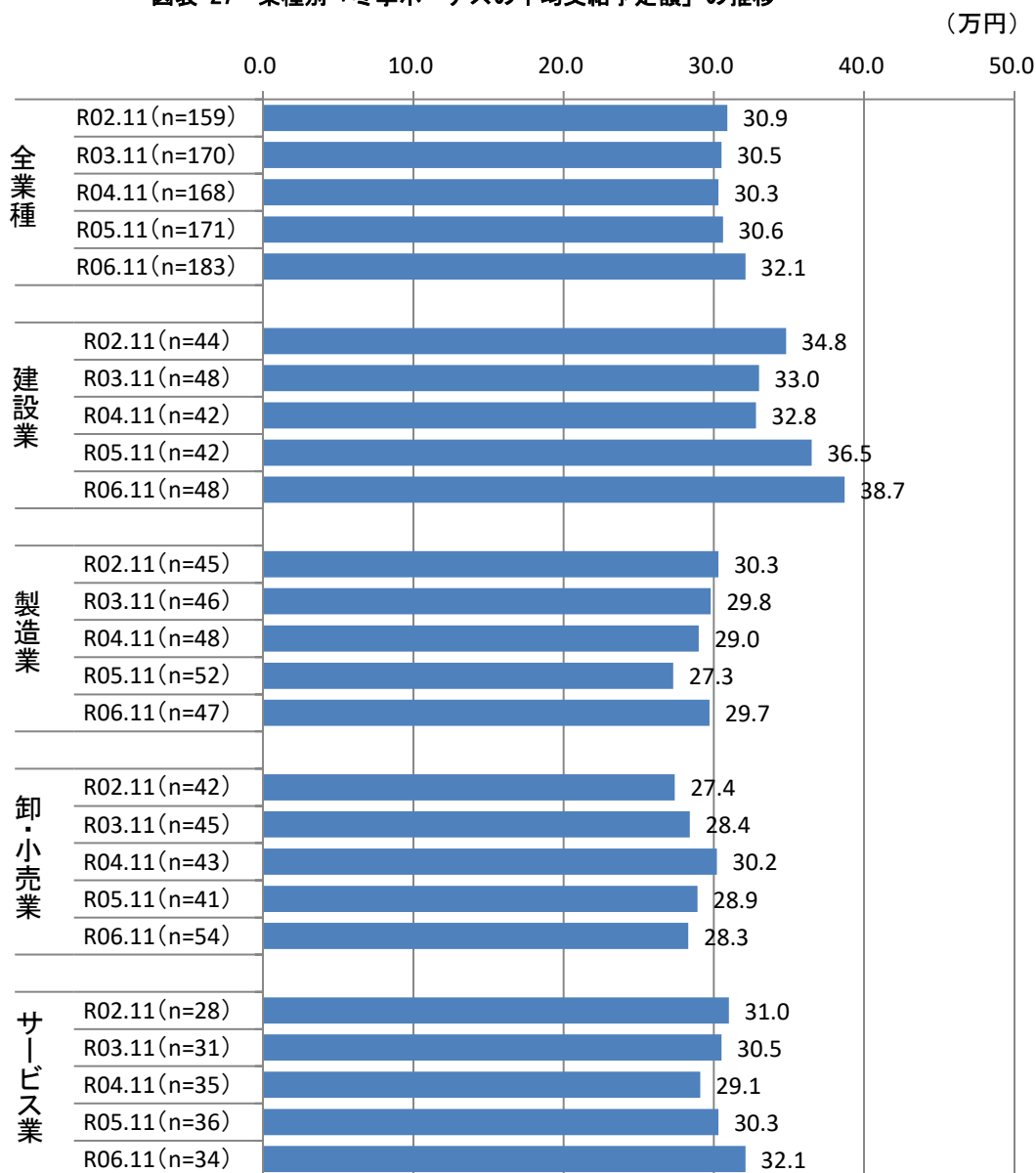
図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 32.1 万円となり、前年に比べ 1.5 万円の増加となった。業種別にみると、前年に比べ、卸・小売業で減少し、その他の 3 業種で増加した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 38.7 万円となり、最も低いのは卸・小売業で 28.3 万円であった。

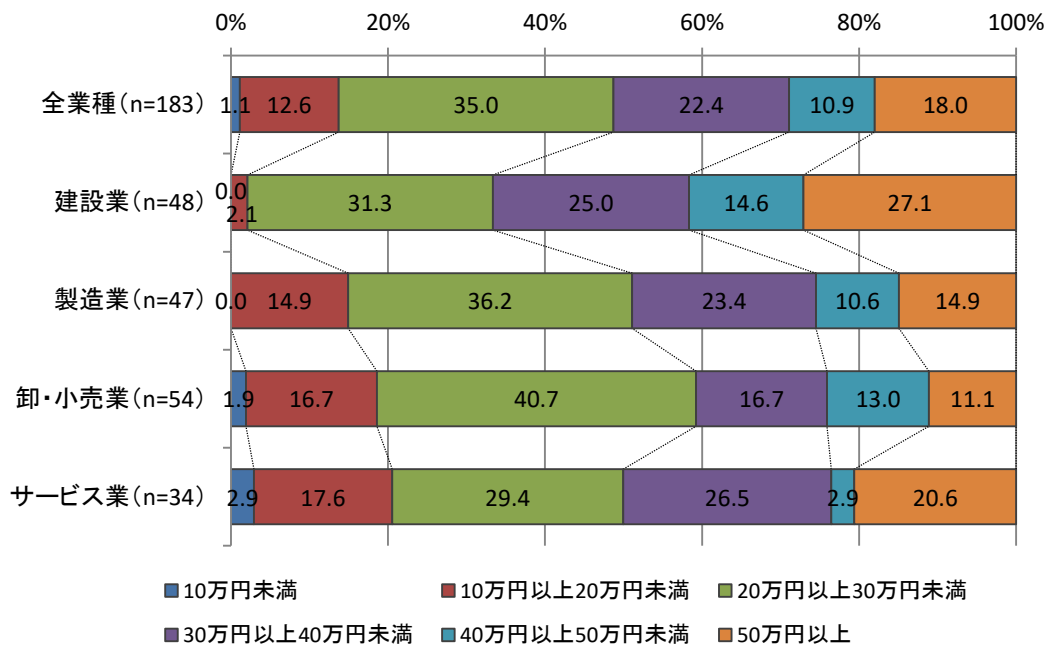
図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



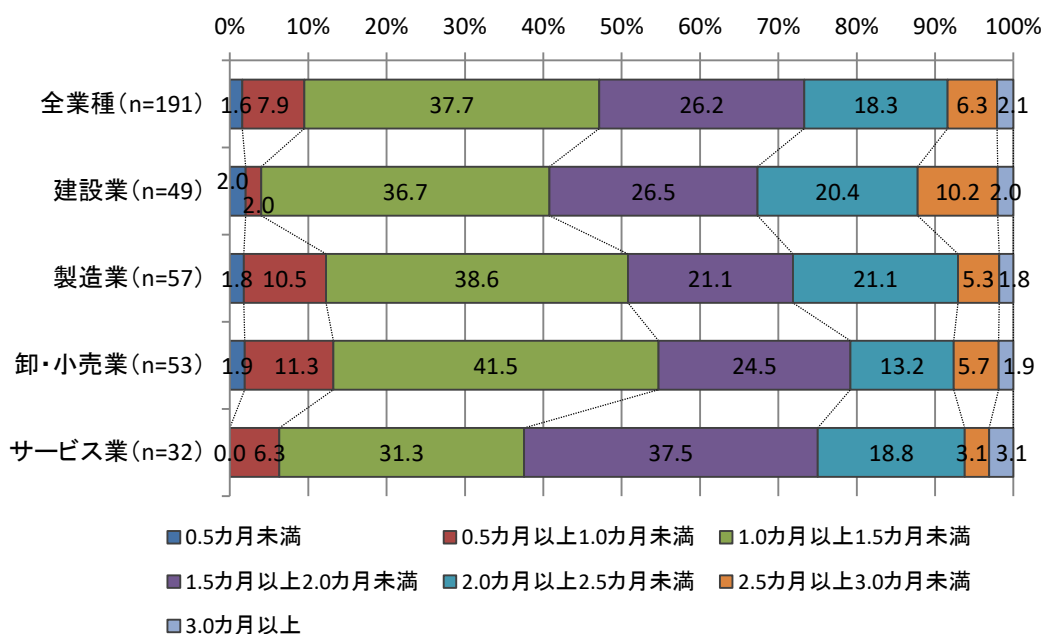
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、35.0%となっている。業種別にみると、建設業では、40 万円以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて高くなっている。(図表 28)

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、37.7%となっている。業種別にみると、建設業では、2.5 カ月以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて高くなっている。(図表 29)

図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	33	41	50	146
村山北部	20	29	17	17	83
最 上	21	18	8	17	64
置 賜	23	27	24	11	85
庄内田川	29	36	27	28	120
庄内飽海	32	31	31	35	129
合 計	147	174	148	158	627

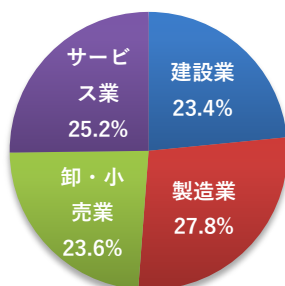
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	17	22	28	33	100
村山北部	7	20	13	10	50
最 上	15	12	6	4	37
置 賜	9	21	13	6	49
庄内田川	20	25	19	11	75
庄内飽海	14	23	20	17	74
合 計	82	123	99	81	385

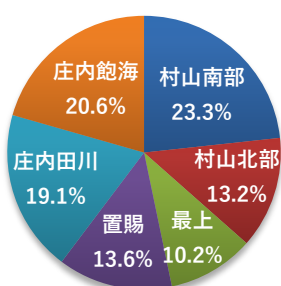
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	77.3	66.7	68.3	66.0	68.5
村山北部	35.0	69.0	76.5	58.8	60.2
最 上	71.4	66.7	75.0	23.5	57.8
置 賜	39.1	77.8	54.2	54.5	57.6
庄内田川	69.0	69.4	70.4	39.3	62.5
庄内飽海	43.8	74.2	64.5	48.6	57.4
合 計	55.8	70.7	66.9	51.3	61.4

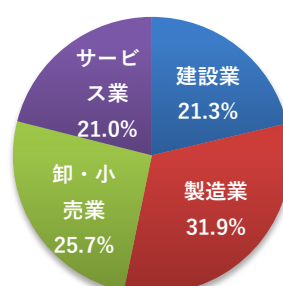
サンプル割合（業種別）



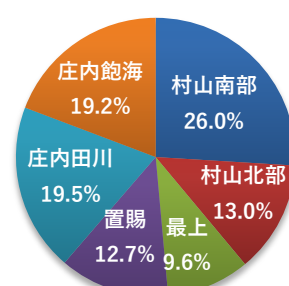
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 6 年 11 月 1 日（金）～15 日（金）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp

URL : <https://www.fir.co.jp/>